

入院のみ 外来のみ ○共通	適応がん種	レジメン名(略語)	臨床使用分類	抗癌剤適応分類	1コース期間
	乳がん	アブラキサン	○日常診療	術前化学療法	21日
			臨床試験承認済・審議中	術後補助療法	
			治験承認済	○進行・再発	予定総コース
		その他( )			可能な限り

☆上記のうち該当箇所○を付けてください

処方No	薬品名(商品名)、溶解液の種類と量	1回投与量	投与時間又は用法	投与日(d1,8など)	投与経路
1	生理食塩液	200mL	1時間	d1	主管
2	Dex 生理食塩液	2A 100mL	15分	d1	側管
3	アブラキサン 生理食塩液	260mg/m <sup>2</sup> *	30分	d1	側管

留意点および急性期有害事象等	<p>&lt;投与基準&gt; WBC&gt;2000/L, Neutro&gt;1,000/L, Hb&gt;8.0 g/dL, PLT&gt;100,000/L; T-Bil≤施設基準値上限、ALT and AST≤施設基準値上限の5倍; ALP≤2.5 施設基準値上限の2.5倍; 血清クレアチニン≤2.0mg/dL,PS≤2</p> <p>&lt;有害事象&gt; 好中球減少(Grade≥3):34.1%、神経障害、知覚性(Grade≥3):10.5%、脱毛(All Grade):90.4%、筋痛(Grade≥3):7.0%</p> <p>&lt;その他注意事項&gt; 【nab-PTX】 *・1バイアル当たり生理食塩液20mLをバイアルの内壁伝いに、直接、内容物にかけないように泡立ちに注意しながらゆっくりと注入する。 ・内容物が確実に濡れるよう5分間以上バイアルを静置する ・調製した懸濁液は必要量をバイアルから抜き取り、事前に用意した空の点滴バッグ等にゆっくりと注入する。 注意:懸濁液を生理食塩液に入れて希釈しないこと。 ・懸濁液の調製に当たっては、必ず生理食塩液を使用すること。 ・懸濁液は調製後速やかに使用するが、又は箱に戻し、冷蔵庫(2~8℃)に遮光保存して8時間以内に使用。 ・本剤投与時には、インラインフィルターは使用しないこと。 ・Recall現象」が認められたとの報告がある。 ・血液製剤に該当するため血液製剤伝票で運用する</p>

参考文献	<p>・Gradishar WJ et al. Phase III trial of nanoparticle albumin-bound paclitaxel compared with polyethylated castor oil-based paclitaxel in women with breast cancer.J Clin Oncol. 2005 Nov 1;23(31):7794-803.</p>
------	--

夜間, 帰宅時, 対応医師への連絡先	平日の日中は外科外来(3057,3058)
--------------------	-----------------------